

「おなかにポコツとふくらみ…脱腸（ヘルニア）かもしれません」

～身近な病気『腹部ヘルニア』の症状から治療までわかりやすく解説します～

毎年6月1日は
「鼠径ヘルニアの日」

症状があっても受診をためらう患者さんが多いとされ、日本ヘルニア学会では啓発活動が行われています。

Q1 腹部ヘルニアとは どのような病気ですか？

腸管や大網などの腹腔内臓器が、お腹の筋肉の弱くなった部分から皮膚の下へ飛び出して膨らむ病気です。足の付け根（鼠径部・そけいぐ）に生じる鼠径ヘルニアが最も多く、おへそ部分の臍ヘルニア、過去の手術創に生じる腹壁癒痕ヘルニアなどがあります。

Q2 鼠径部ヘルニアの特徴は？

生涯に男性の約4%、女性の約1%が発症し、国内では年間約15万人が手術を受けています。加齢による筋力低下やお腹への持続的な負荷が発症に関係するとされます。足の付け根の膨らみ・違和感・痛みが主な症状で、立つと目立ち、横になると引込むことも特徴です。

Q3 検査・治療について

身体診察が最も重要で、エコーやCT検査も用います。完治には手術が必要で、人工物（メッシュ）でヘル

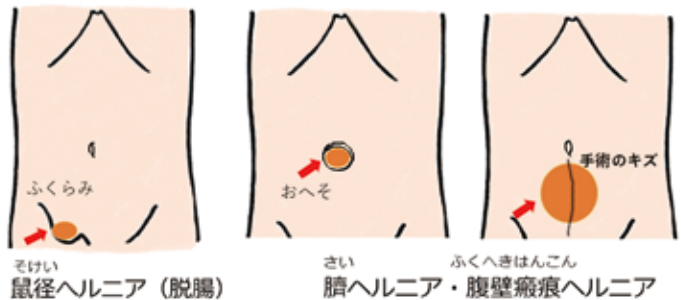
Q6 臍・腹壁癒痕ヘルニアの 治療

メッシュを用いた修復手術が基本で、開腹・内視鏡下の両方があります。近年は腹直筋の裏側にメッシュを挿入する「腹膜外修復法」が普及してあり、腸との癒着リスクが低く慢性疼痛も少ないため、当院では積極的に取り組んでいます。

市民のみなさまへ

腹部ヘルニアは、適切な診断と治療で改善が期待できる病気です。症状がある場合は一人で悩まず、ぜひ医療機関へご相談ください。岐阜市民病院では2025年3月より「おなかのヘルニア外来」を開設し、積極的にヘルニア診療を行っています。まずはかかりつけ医にご相談のうえ、ご紹介いただくこともお勧めします。

発症を完全に予防する方法はありませんが、便秘解消・肥満対策・禁煙などの生活習慣の改善が助けになります。痛みなどの症状がなければ慎重に様子を見ること（経過観察）も可能ですが、ヘルニアが大きくなる場合や症状が出た場合は手術をお勧めします。鼠径部の膨らみを確認するセルフチェックも大切です。



今月の先生

岐阜市民病院 外科

今井 健晴

○役職

外科副部長
初期臨床研修室長 など

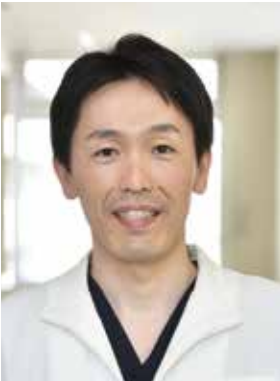
○主な資格、認定

日本外科学会 指導医・専門医
日本消化器外科学会 指導医・専門医
日本食道学会 食道科認定医
日本腹部救急医学会 認定医
日本ヘルニア学会 鼠径部ヘルニア修得医
日本ロボット外科学会 Robo・Doc Pilot 国内B

日本外科感染症学会推薦 Infection Control Doctor
医学博士 など

○卒業年、主な職歴

平成19年高知大学医学部卒
岐阜大学 腫瘍外科
岐阜県総合医療センター 外科
高山赤十字病院 外科
愛知県がんセンター 消化器外科レジデント
下呂市立金山病院 外科
広島大学分子病理学研究室 など



岐阜市民病院ホームページ
「市民公開講座の動画」のページ